

CASBEE-建築(新築)2016年版
大阪鋼管株式会社 小倉営業所

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版



欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									1.8
Q1 室内環境					0.30				1.8
1 音環境				1.8	0.15				1.8
1.1 室内騒音レベル				1.0	0.40				
1.2 遮音				3.0	0.40				
1 開口部遮音性能				3.0	1.00				
2 界壁遮音性能				-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-				
1.3 吸音				1.0	0.20				
2 温熱環境				1.0	0.35				1.0
2.1 室温制御				1.0	1.00				
1 室温				-	-				
2 外皮性能				1.0	1.00				
3 ゾーン別制御性				-	-				
2.2 湿度制御				-	-				
2.3 空調方式				-	-				
3 光・視環境				1.8	0.25				1.8
3.1 昼光利用				1.8	0.30				
1 昼光率				1.0	0.60				
2 方位別開口					-				
3 昼光利用設備				3.0	0.40				
3.2 グレア対策				1.0	0.30				
1 昼光制御				1.0	1.00				
3.3 照度				2.0	0.15				
3.4 照明制御				3.0	0.25				
4 空気環境				3.0	0.25				3.0
4.1 発生源対策				-	-				
1 化学汚染物質				-	-				
4.2 換気				-	-				
1 換気量				-	-				
2 自然換気性能				-	-				
3 取り入れ外気への配慮				-	-				
4.3 運用管理				3.0	1.00				
1 CO ₂ の監視				-	-				
2 喫煙の制御				3.0	1.00				
Q2 サービス性能				-	0.30				2.1
1 機能性				1.7	0.40				1.7
1.1 機能性・使いやすさ				-	-				
1 広さ・収納性				-	-				
2 高度情報通信設備対応				-	-				
3 バリアフリー計画				-	-				
1.2 心理性・快適性				1.0	0.50				
1 広さ感・景観				-	-				
2 リフレッシュスペース				-	-				
3 内装計画				1.0	1.00				
1.3 維持管理				2.5	0.50				
1 維持管理に配慮した設計				3.0	0.50				
2 維持管理用機能の確保				2.0	0.50				
2 耐用性・信頼性				2.6	0.30				2.6
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.30				
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.20				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.10				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.20				
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20				
2.4 信頼性				1.2	0.20				
1 空調・換気設備				1.0	0.20				
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20				
3 電気設備				1.0	0.20				
4 機械・配管支持方法				1.0	0.20				
5 通信・情報設備				1.0	0.20				

3 対応性・更新性			2.1	0.30		-	2.1
3.1 空間のゆとり			1.0	0.43		-	
1 階高のゆとり			-	-		-	
2 空間の形状・自由さ			1.0	1.00		-	
3.2 荷重のゆとり			-	-		-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.57		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40		-	1.7
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40		-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-		-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40		-	4.6
1 建物外皮の熱負荷抑制				-		-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.17		-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.23	5.0	0.83		-	5.0
4 効率的運用			-	-		-	-
集合住宅以外の評価			-	-		-	-
4.1 モニタリング			-	-		-	-
4.2 運用管理体制			-	-		-	-
集合住宅の評価				-		-	-
4.1 モニタリング				-		-	-
4.2 運用管理体制				-		-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30		-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.5	0.60		-	2.5
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.14		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	-		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.29		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.29		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		屋根、外壁はビス止め及び嵌合で納めている	4.0	0.29		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	1.00		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			-	-		-	
1 消火剤			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	-		-	
3 冷媒			-	-		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30		-	2.9
1 地球温暖化への配慮		エネルギーを使用する設備がほとんどない	4.5	0.33		-	4.5
2 地域環境への配慮			1.5	0.33		-	1.5
2.1 大気汚染防止			-	-		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			1.0	0.67		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.5	0.33		-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33		-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.67		-	
1 騒音			3.0	0.50		-	
2 振動			3.0	0.50		-	
3 悪臭			-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			-	-		-	
1 風害の抑制			-	-		-	
2 砂塵の抑制				-		-	
3 日照阻害の抑制			-	-		-	
3.3 光害の抑制			2.3	0.33		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			2.0	0.70		-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	